



草野可奈さん(S34)

草野きーきんぐ学園 園長

山梨英和高等学校を卒業後長い年月が過ぎましたが数年前に卒業した様に感じます。友人達も皆元気で若々しく活動しています。英和の伝統の制服と校訓の「敬神 愛人 自修」を大変誇りに思います。そしてお嬢さんのいらっしゃる方達にぜひ山梨英和学院への進学を推薦したいと思えます。私も卒業後数年しましてから好きでしたキモノの勉強を東京渋谷に有ります学校法人「清水とき・きものアカデミア」

へ通い「総合きもの着装正教授」と国家検定「一級着付け技能士」を取得しました。その後昭和52年に着物着付け専門の「草野きーきんぐ学園」を開校。きもの道一筋にキモノを日本の文化として受け継ぎ自分で着る喜びと着せる技術の輝きを覚えて頂きたいと願い現在に至っています。又キモノが結ぶ国際交流として「留学生キモノ体験教室」をボランティアでおこなっています。皆さん日本のキモノを着ることを大変喜んで下さいました。英和の国際的に活躍する教育に日本の民族衣装キモノを自分で着てぜひ着物姿でレセプションパーティー等に出席してほしいと願います。私自身も中高一貫教育の中でいつの間にか浸透していた神に感謝する心温かく安心な教室として師弟関係が作られています。英和を卒業した事に誇りを持ち感謝をしています。

有泉 久美子さん(H6)

山梨日日新聞 記者



山梨英和からほど近い、JR甲府駅北口にある山梨日日新聞社で記者として働いています。カメラとノートとペンを持って、県内あちこちにお邪魔しています。気付けば入社しては20余年。これまでに文化部で文学や歴史を担当したり、山梨県庁や甲府市役所の記者クラブで行政や地域の話題を取材したり。生活部では医療や福祉の現場に伺って、高齢者や障害者のさまざまな課題について学ばせていただきました。

その間に結婚、二人の子どもを出産。二度の産休・育休を経て、現在

は文化・くらし報道部で美術や書道に関する記事を書いています。県立美術館をはじめとする県内の美術館やギャラリーで開かれる展覧会や、県内で活躍するアーティストを紹介するのですが、総心も知識もない私は、芸術の世界を言葉にする難しさに直面。なんとか作家さんの思いを伝えようと耳を傾ける日々です。取材を通じて多くの元英和生に出会いました。さまざまな分野で活躍されていて、うれしく、また誇らしい気持ちになります。アスになって働き続ける元英和の同僚も多く、英和で育まれた主体性や意志の強さを感じています。新型ウイルスの感染拡大で今、日本中がどんよりとした空気に包まれています。外出自粛や休校が続き、多くの人がストレスを抱えています。「日常」がいかに大切か思い知らされます。こんなときこそ地元メディアとして、正しい情報と心が明るくなるような話題を伝えていきたいと思っています。(署名記事は山本久美子で記載)

前村 里菜さん(H24)

フリーアナウンサー



私は現在フリーアナウンサーとして活動をしています。UTYテレビ山梨の情報番組のリポーターやFM FUJIのニュースを始め、ヴァンフォーレ甲府のスタジアムDJやイベントの司会など、山梨の魅力や情報をお伝えするとともに、山梨を盛り上げられるように日々奮闘しています。

大学進学に合わせて上京しましたが、憧れていた東京での生活は想像していた時間とは違い、山梨は遊ぶ場所や電車の数が少ないなど不便に感じていたところが、実は良いところでもあると気づきました。県内

外に誇れる豊かな自然が織りなす風景や、大地の恵みを受けた野菜や果物など、山梨に戻ってきた今も仕事で県内各地を訪れる度に新しい魅力に出合っています。大変なこともあります。英和で学んだことや、新約聖書に出てくる「明日のことは、明日自らが考える。その日の苦労はその日だけで十分である。」という一節は、失敗を恐れず、日々目の前の仕事に全力で取り組めるよう背中を押してくれています。また、英和で出会った友達は神様からの賜物です。気づけば成人を迎え、最近ではお酒を飲みながら将来のことを話すようになりました。そんな時間は至福のひと時であり、活力に繋がります。これからも、英和で学んだことや出会った友達を大切に、アナウンサーとして山梨の皆さんにより山梨を好きになってもらえるように、大好きな山梨の魅力を発信し続けていきたいと思っています。